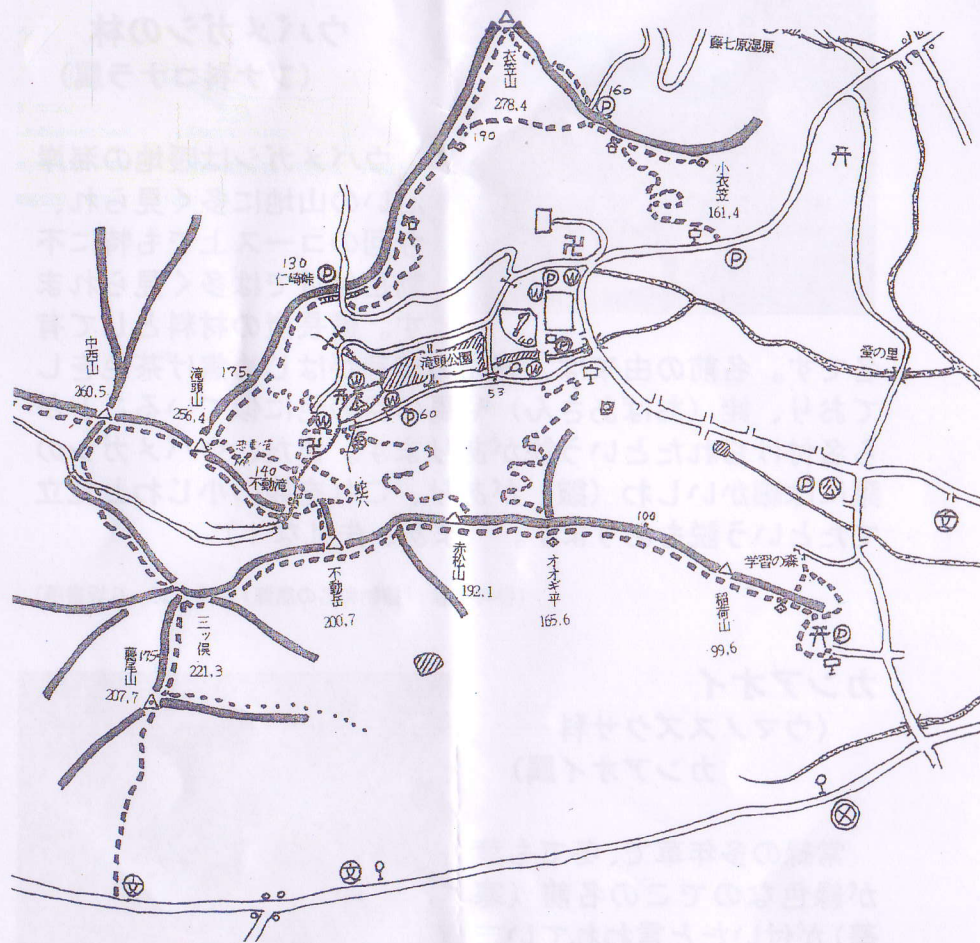


稲荷山周辺の自然歩道



*1993年3月 たらめ会作成による「衣笠自然歩道」より一部抜粋して転載

2004年 定例自然観察会

稲荷山・滝頭公園の自然観察



(衣笠市民館駐車場から見た、稲荷山から不動岳への稜線)

3月14日(第1回)

主催：NPO法人東三河自然観察会
後援：田原市・田原市教育委員会

渥美半島の地形



図-2 渥美半島の地形

渥美半島はおもしろい形をしています。一つは東西方向に長く延びていることと、二つには太平洋側の標高が高く、三河湾の方へ低くなって傾いていることです。

長さ約40km、幅5～8kmと細長い半島の中には、全体に標高100～300mの山が多く見られます。稲荷山付近の山は、海から近いところにあるにもかかわらず、衣笠山278m、滝頭山256mほどの高さがあります。

太平洋側は表浜と呼ばれ、海食崖が延々と連なり、半島の南側のつけ根付近では、標高50mを越え、西に行くにしたがってだんだん低くなり、伊良湖岬付近では見られなくなります。

また、ほとんどの川は南側を水源とし、北側に向かって流れています。

どうして、こんな地形になったか考えてみましょう。

(図引用:「渥美半島の植物」:東三林業振興会)

コース上で見られる植物から



ウバメガシの林 (ブナ科コナラ属)

ウバメガシは暖地の海岸沿いの山地に多く見られ、今回のコース上でも特に不動岳付近では多く見られます。備長炭の材料として有名です。

名前の由来は、春先の若芽がはじめ焦げ茶色をしており、姥(おばあさん)や馬の目の色に似ていることから名付けられたという説があります。また、ウバメガシの葉には細かいしわ(皺)があり、これを姥の小じわと見立てたという説もあります。(まあ、失礼な!)

(参考文献:「植物和名の語源」深津 正 八坂書房)

カンアオイ

(ウマノスズクサ科
カンアオイ属)



常緑の多年草で、冬でも葉が緑色なのでこの名前(寒葵)が付いたと言われています。花は地面に埋もれるように着きます。

カンアオイにはたくさんの種類があります。また、これらは、ほとんど日本特産の種です。種子の散布範囲が狭く、地域ごとに分化して変種が多いと考えられます。

ギフチョウの食草としても有名です。

(参考:国立科学博物館ホームページ)